日本ソーシャル・イノベーション学会

ソーシャルイノベーション教育・研究のスコープ

国際事例を中心に今後のSI学会に必要なスコープを考える

2026年11月14日　島岡未来子（神奈川県立保健福祉大学／早稲田大学）

将来構想サブセッション

発表の視点

海外の教育・研究事例から、ソーシャルイノベーションが対象とする領域と役割を考える

将来構想の議論を深める材料を提供する

「ソーシャル・イノベーション」を大学はどう数えるか

国内外の事例数は、定義によって大きく変わる

A｜明示的な教育

名称にソーシャルイノベーションを含む学位・学部・副専攻・体系的な修了プログラム

数を紹介する際の基本区分

B｜関連する体系的教育

社会起業、社会変革、インパクトなどを体系的に学ぶ大学プログラム

教育内容の比較にも採用

C｜周辺の関連科目

気候・公共政策・共創などの科目があるが、SIとの関係が明示的でない

事例から原則除外

小括：社会的起業を超える８つのテーマ

大学で扱う対象領域を３群に整理。各大学がすべてを教えているわけではない

社会・地域

- 地域との共創
- 市民参加
- 格差・社会的包摂

例：住民参加型の地域づくり、包摂的サービス

政策・公共性

- 政策・制度変革
- ガバナンス
- 社会的インパクト

例：公共政策、組織間協働、成果の検証

技術・地球環境

- 環境・持続可能性
- 人工知能倫理・デジタル社会

例：公正な技術導入、循環経済

重要なのはテーマの多さではなく、変革を生む仕組みを分野横断的に学ぶ点。

出典：将来構想ワーキンググループ（2026）

小括：ソーシャルイノベーションを支える学問分野

社会科学が土台である一方、価値・生命・技術を扱う学問との接続が課題

社会の構造と制度

社会学・文化人類学

社会構造、当事者性、包摂

公共政策・行政学

制度設計、公共性、統治

経営学・社会起業論

事業、組織、資金、評価

変革を生み出す方法

教育学・学習科学

プロジェクト型学習、学習評価

デザイン・建築・芸術

共創、試作、公共空間

心理学・行動科学

行動変容、動機、意思決定

地球規模・技術・規範

開発学・環境学

国際開発、循環経済、気候

情報学・工学

データ、人工知能、市民技術

哲学・倫理／生命科学・生命倫理

正義、健康、生命

研究の「対象分野」と、社会変革を理解する「研究方法・共通理論」を分けて考えるのもよいかもしれない。

研究拠点は何を担うのか：４つの機能

研究センターは「社会課題を扱う」だけでなく、変革の知識を生み出す

理論・方法論の形成

社会変革が生まれる条件・過程・制度化・普及を研究。
例：ウォータールー大学

国際比較と実証

成功・失敗を横断比較し、政策・制度や手法の改善に還元。
例：ドルトムント工科大学

現場との共創・実装

行政・企業・市民社会とともに設計し、実践の中で検証。
例：京都大学

評価と教育への還元

インパクト評価、教育プログラム、研究者・実践者育成。
例：スタンフォード大学

研究対象が広くても、共通の研究方法・評価軸・知識蓄積を持つことが重要。

研究テーマの拡張：倫理・生命・技術との接続

社会科学を超えて「何が望ましい変革か」という価値判断を含める

哲学・倫理

誰の価値が優先されるのか。公平・権利・包摂・当事者性をどう扱うのか。
研究問い：社会変革を「よい」と判断する基準は何か。

生命科学・生命倫理

医療・健康・生命に関わるイノベーションの便益とリスク、アクセス格差。
研究問い：技術と制度の変化は誰の健康や生命に影響するか。

情報・工学・環境

人工知能、気候、循環経済などで、技術的解決と社会制度の変革を接続。
研究問い：技術が社会に定着する条件や副作用は何か。

「自然科学・技術の研究そのもの」と「社会に実装・定着する条件の研究」を区別して接続する。

将来構想ワーキンググループの問題提起＋国際事例からの提案

教育・研究・実践は「循環する」学習プロセス

3つを循環しながらスパイラスアップ

01 課題を理解

現場・当事者の声／社会構造・制度・権力関係

→

02 解決策を構想

システム思考／デザイン／事業・制度の選択肢

→

03 共創・試行

住民・行政・企業・非営利組織と実験・実装

→

04 成果を検証

アウトカム／社会的インパクト／失敗から学ぶ

学外パートナーは研究課題の設定から評価まで知識をともに生み出す存在

研究と現場の往復により、個別事例の経験を他地域・他領域にも使える知識にする。

問い

学会が考える「スコープ」を３つの軸で整理する

WHAT｜何を対象にするか

地域、福祉、生命、環境、格差、民主主義、人工知能……
対象領域は広い。

WITH WHAT｜何を使うか

政策・経営・社会学／哲学・倫理／生命科学・情報・工学／デザイン
……
学問の組み合わせは多様。

HOW｜何を解明するか

社会的変化の生成、協働、普及、制度化、長期的な効果や副作用。
ここが共通の研究課題となり得る。

ソーシャルイノベーションとAI

・AIはSIに活用できそうか
・研究や実践にAIをどうつかうか？
・AIを使うことを通じてSIの本質が変化するのかしないのか？倫理感、規範とAIの活用がどうぶつかるのか？
コントロールするのか？現在の道具としてのAIと今後の可能性は？

問い

これからの日本SI学会に必要なスコープとは？

01 どこまでを射程に入れるか？

社会起業に加え、地域共創、民主的統治、環境、医療、人工知能倫理まで？

02 どの知識・方法をつなぐか？

社会科学と哲学・倫理、生命科学・生命倫理、工学・情報科学をどう架橋する？

03 学会は何を担うか？

理論形成、比較研究、教育研究、共創のプラットフォームをどう育てる？

その広がりの先に、私たちはどのような未来を目指すのか。